平成30年度　横浜市世界を目指す若者応援事業

（個人留学による帰国報告）

●氏名

ＫＦさん

●留学先

国/都市：米国/カンザス州 オレイサ

外国の高校：オレイサウェスト高校

●留学期間

2018年8月8日～2019年6月26日

●留学先での活動、留学で学んだこと

＜生活＞

私は約１１ヶ月間、アメリカのカンザス州にあるオレイサという街に留学した。カンザス州はアメリカの中部に位置し、オレイサはカンザスシティ空港から車で約30分ほどにある。広大な平野が続き、夏はとても暑く、冬は-10℃以下にもなる地域で何日か休校になるほどだった。天候が変わりやすく、初夏にはハリケーンがよく発生する。何度かハリケーン襲来の警告のサイレンも経験し、サイレンのたびに家の地下に避難していた。移民が多い街で、アジア人は多いものの、滞在中同じ交換留学団体以外の日本人学生に会うことは一度もなかった。

ホストファミリーは両親に加えて大学生と中学生のホストシスターだった。上のホストシスターはオレイサから約１時間離れた大学に通い、顔を合わせる機会は少なかったが、下のホストシスターとは近所の子供たちも交えてたくさん遊び、たくさん些細なことで言い合いもした。一人っ子の私にとっては姉妹ができたことはとても新鮮で、また刺激を受ける良い機会となった。彼女のおかげで人脈も広がり、年下の子供たち、近所の親たちにも信用され一緒に時を共にすることができた。とてもアウトゴーイングな家庭だったので、学校に支障のない期間にテキサス、ニューヨーク、海洋クルーズでメキシコ、ホンジュラス、ベリーズなど、たくさんの旅行にも連れて行ってもらい、州や国ごとの雰囲気の違いを感じることもできた。

＜学校＞

現地では共学公立、創立２年目の新しい学校で、約4,000名が在校する学校に通った。当時高１であったのにもかかわらず、なぜか自分も含めデンマーク、スペイン、エジプトからの留学生４名全員がsenior(高３)として在籍する事になった。

最初は全てに圧倒され、クイズに加え宿題が山のように毎日あったので始めの数ヶ月はてんてこ舞いの日々だった。

特に私の学校はテクノロジーに重点を置いている学校で、全員にmac bookが貸し出され、基本はオンラインで課題の提出、プロジェクトの作成を行う。先生とのやり取りや成績の確認もこのラップトップ１つでこまめに行える。慣れるまではほとんど徹夜で宿題やテスト勉強に打ち込

む日々で、私が幼い頃アメリカのテレビ番組で見て想像していたハイスクールミュージカルの世界とは全くかけ離れていた。しかし、一方でアメリカの学校のシステムには目を見張る部分が沢山あった。生徒と先生がしっかりコミュニケーションを取れる仕組み、自分の興味のある分野の授業を自由に選択して「実際にやってみる」生徒主体のディスカッション形式の授業などだ。

私も座学だろうと思って取った「strength and conditioning」の授業は毎回バーベルやダンベルトレーニングで、タフにならざるを得なかったが、先生と楽しくコミュニケーションをすることができた。生物系の授業では教室のバックヤードに動物の飼育室があり、蛇やトカゲ、ウサギやモルモットなど小動物の世話に勤しんだ。さらに、近くの小学校や幼稚園に通う子供たちにその動物についてプレゼンしたり、環境問題について実際に模型を製作、実験のプロジェクトもこなしたりするうち、そこでたくさんの友達もできた。アイディアの発想、大量のスライド作りや工作は骨の折れる作業だった。しかし、最終プロジェクトでは優秀作品として、狩りをするときに使うスタンド模型を学校のショーケースディスプレイに飾っていただいた時には、学校から走って帰ってホストファミリーに報告するほど嬉しかった。

最後には卒業式やプロムに参加するというアメリカらしい貴重な体験もできたことは本当に思い出深いものとなった。

＜シーズンスポーツ＞

ウインターシーズンはスプリングシーズンに向けて体力、筋肉作りをしようとクロスカントリーのオフシーズン練習に参加した。学校の近くの道や森の中を、雨の日はランニングマシンで毎回最低３マイルがノルマで友達と凍りそうになりながら走った。辛かったはずなのにかえってそれが友達との絆にもなった。

スプリングシーズンにはスイミングチームに所属し、学校で varsity（学校代表チーム)の表彰を受けることができ、JV リーグ(junior varsity team といって選抜された varsity の一つ下のクラス。人によっては両方のチームでプレーすることもある。)のリレーでも３位のメダルを残すことができた。さらに結成されてまだ年数が経っていない中、上位成績者のチームで思いがけず州大会に進めることになり、卒業式当日の朝に遠征し州大会に出場し、その夜に卒業式に出席した。特にその仲間とははじめは馴染めそうにない雰囲気だったが、積極的に話しかけて絆を深めようと取り組むうち、今では毎日連絡も取りあう仲になった。約３ヶ月間、放課後に毎日２時間練習し、スポーツは確実に国境を越えられると実感しながら心身共に成長できたと思う。

＜サービスクラブ＞

前期にとっていた好きなクラスのうちの一つの「human growth and development」の先生に誘いを受け、サービスクラブというボランティア団体に入ることになった。このクラブに入ったことはこの留学で一番楽しく、そして将来を改めて考えるきっかけとなった。主に行なった活動は子供や動物のお世話、病気の子どもたちの病院スポンサーのメンバーとして参加したマラソン大会の応援、地域のパラリンピック。特にマラソン大会の応援ボランティアの時はランナーの方に“you guys are the best cheer leaders in this world”と温かい言葉をいただいた時、ボランティア参加活動に対し、本当に良かった、今後も続けていきたいというモチベーションになっていった。日本ではできないボランティア活動を体験でき、信用できる大切な友達もこのクラブに入ったことで沢山できた。始めは興味のなかった留学生の友達を誘って輪が広がり、友達も喜んで一緒に活動ができた経験や、学んだ運営の経験を今後のボランティア活動にも生かしていきたい。

＜日本の紹介＞

９月に開催された Japanese festival に浴衣を着てボランティアとして参加した。私は「浴衣の体験コーナー」で来場者が浴衣を着て写真を撮るブースで着付けや呼び込みの手伝いをした。想像していたより多くの来場者であふれていて、田舎の町でもこんなにも日本に興味を持ってくれていることに正直意外に感じ驚いた。

学校では、日本人留学生の紹介の学内ポスターで日本について紹介したり、春休みに日本旅行に行く人向けにプレゼンテーションを実施した。その際横浜市についても紹介した。日本に目の前の人たちが訪れた時、何に困るか想像しながらプレゼンテーションをすることに気をつけた。後から、私の説明した内容やおすすめのお店などの情報が実際役に立ったと聞き嬉しくなった。

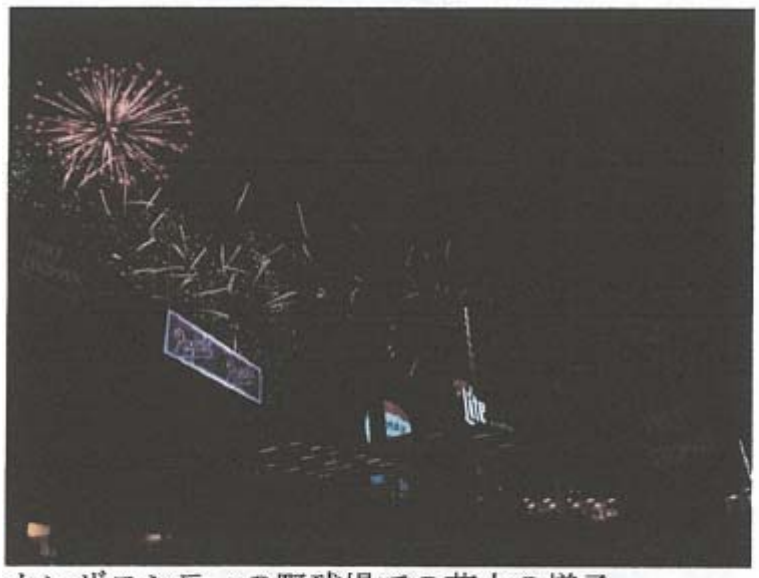
＜将来について＞

帰国した今、留学に行く前より将来ビジョンにおおきな変化、影響があったと思う。サービスクラブをはじめ、ボランティア活動の体験を通して、人のために、何かのために尽力することへの喜びや、困難を自分の手で解決して糧にしていくことを学んだ。

留学の経験を通して身をもって感じたテーマは「人と人をつなげる」ことの重要性。何度も励まされ、頑張れたのは人とのつながりのおかげだった。このテーマを基軸にし、今後社会を元気にできるよう活動してゆく予定だ。そして、もちろん英語をコミュニケーションのツールとして国際的に活躍できる人材になりたいと考えている。

＜最後に＞

常に私のことを優先に考えてくれていたホストファミリー、どうしたらいいのか分からない時に支えてくださった先生方、困ったときはすぐに助けてくれた友達、支援してくださった横浜市の皆さん、見えないところでも私の留学にかかわって支えてくださった全ての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。



カンザスシティの野球場での花火の様子
カンザスにはメジャーリーグの「ロイヤルズ」という野球チームがある

全校生徒が集う高校のアッセンブリー

バスケットボールシーズン

フットボールシーズン

スポーツは学校内でもさかんで人気
選手として大学進学する生徒もいる

卒業式

ホストシスターと家の庭で